

二人が来て「これから発表がありますから聞いて下さい」と私に声をかけてコーヒーを啜っていた。「災害医療Ⅱ」、「当院と大森各医師会等合同災害救護訓練」緊急医療救護所(座長・北見赤十字病院、医療情報係長)であった。

私は以前特別老人ホームの施設長をしていた頃のことを思い出す。やはり地域住民の方々と避難訓練を年に一回は実行していた。地域のかたがたの協力がなくてはならない。

発表が終了し座長より「質問ありませんか」という問いに對して、私は思わず「ハイ」と手を上げてしまった。「地域住民の方との訓練は、前もって打ち合わせをしたのですか」「そうですね。町内会の方々と打ち合わせをしましたよ」と。

訓練とはいえ、綿



密な話し合いと確認が大切であることを実感した。災害にあっても慌てないように、日ごろから訓練し準備しておくことの大切さを痛切に感じた。

会員・荒田悠 おもてなしは 明日への一歩

この度の医学会総会に、全国各地より大勢の医療関係者が参加され、当支援会の協賛パネル展にも足を運んでいただきました。その多くの皆様が立ち寄って下さった休憩コーナーで、私もスタッフ一同心からの歓迎の意を込

めて、湯茶のおもてなしをさせて頂きました。

まず、訪れる皆さんから最初に質問を受けたのが「支援の会」ってなんですか。「どんな人たち」の集まりですか。「病院のOB」の方々のすか。「病院の仕事」を手伝っているのですかなどでした。その様な会話の傍ら、ドリンクコーナーへご案内し、飲み物を召し上がって頂き、15・6の両日に亘りお越しいただいた方も数多く、何人もの方々から、「北見の水はおいしいですね」「こんな美味しいコーヒーは余り飲んだことがない」と何度もお替わりなさるなど、その一言に胸が熱くなるのを覚えました。

そのドリンクコーナーを設定、サービスのご指導をいただいた(株)光洋アメニティ施設総括責任者様、カフェ店長様、

今後益々、北見赤十字病院がこのオホーツク圏において、最先端の医療技術の為に充実、発展していただけることを願います。

支援の会の一員として、これからも様々な分野で学び、そして今日を一歩に、支え合いの絆をより一層強め、活動を続けてまいりたいと、思いを新たにしました次第です。

会員・阿部孝子

地域医療が身近に

先日開催された日赤医学会総会において、私は当会の会員としてドリンク休憩に來られる皆様のお出迎えのお手伝いをさせて頂いていただきました。

参加証に記された施設名を拝見すると、全国各地で活躍されている様々な職種の方々とお会いすることができ、とても光栄に思いました。



訪れたかたお一人一人に機関紙を手渡し、「日赤を応援している市民の会です」とお声かけをされると、私たちが日赤関係者ではなく一般市民と知って驚かれる方が多くいらっしゃいました。このような形でボランティア活動をやるケースはほとんど例がないとのことで、私たちがのように日赤病院の発展を願って応援する市民の存在を知ってもらえる、とても良い機会になったのではないのでしょうか。

医療というものは、医師や看護職だけでなく、地域医療に携わる方々の健康を守るという意味でも、連携が整った地域医療はなくてはならないものだと思います。

今後市民の立場で、地域医療についての知識と理解を深め、自分にもできる活動をしていきたいと思っています。

会員・森實結佳

